

令和2年1月15日  
北海道開発局

北海道開発局コンプライアンス第三者委員会  
議事概要について

(概要)

標記委員会について、以下のとおり開催されましたので、お知らせします。

(開催日)

令和元年12月10日(火)

(開催場所)

札幌第1合同庁舎15階 北海道開発局特別会議室

(出席者)(敬称略)

委員長	阿座上洋吉	地域経済研究所理事長
委員	佐藤 大輔	北海学園大学大学院経営学研究科 経営学部 教授
	谷口 勇仁	北海道大学大学院経済学研究科教授
	富樫 正浩	公認会計士富樫正浩事務所公認会計士
	秀嶋ゆかり	秀嶋法律事務所弁護士
	藤田美津夫	藤田・荒木法律事務所弁護士
	向田 直範	学園法律事務所弁護士

北海道開発局

後藤局長、津垣次長、佐藤開発監理部長、高橋事業振興部長、平野建設部長、  
魚住港湾空港部長、石川農業水産部長、増田営繕部長ほか

(後藤局長挨拶)

- 北海道開発局では、これまでコンプライアンス推進計画に基づく様々な取組を進めており、今年度は、コンプライアンスを知識から意識へと変えて組織に定着させるべく、法令遵守を基本とした上で、北海道総合開発計画の推進を通じた職員の意識改革、風通しの良い組織風土づくりに組織を挙げて全力で取り組んできた。北海道総合開発計画では、3つの大きな目標のひとつとして、強靱で持続可能な国土づくりを掲げているが、その一環として、昨年発生した北海道胆振東部地震等の復旧復興のため、組織を挙げて様々な支援活動を行ってきた。このような取組を通じて、職員は社会的使命をさらに認識してきているものと考えている。

(議事概要)

- 事務局から、「コンプライアンス推進の取組状況及び今後の進め方」について説明した。
  
- 委員から次のような意見があった。
  - ・ ハラスメント対策は、実態に則して予防に繋げていくことが重要なので、ハラスメントに関する職員アンケートを実施してはどうか。
  
  - ・ コンプライアンス意識を定着させるためのソフト的な取組を、どれだけ細やかにやっていけるかが大切。読み物だけでなく、イントラネットで動画を共有する仕組みを作るなど、若い職員を意識した工夫をしてはどうか。
  
  - ・ 事例集を何人の職員が見たのか、あるいは職員がどんな影響を受けたのかといったデータは重要。できれば自分の感想等が入力できて職員の関心度等が測れば良い。同じような普及啓発活動を継続しているとマンネリ化するので、職員が自らの主張を入力し参加している気持ちにさせる等の仕組みが良いと思う。
  
  - ・ 非違行為には、ある程度共通する背景等があると思う。最初はそういうつもりでなくても、最終的に非違行為に発展していく場合もある。非違行為のきっかけになりやすいものを職員にわかりやすく伝えていくことが大事だと思う。
  
  - ・ 事例集を研修で使う場合、講師が教科書を説明する学校的な教育だと受講者が「知っているけどわかってない」という結果になってしまう場合があるので、ケーススタディーのようなものを用意して、職員に自ら考えさせ、気づきを促すプログラムにすると効果的だと思う。
  
  - ・ 特許を含めた新しい技術を普及させていくという国の施策があったと思うが、開発局が発注する工事にも積極的に新しい技術を取り入れるべきと考える。
  
- 委員からの意見に対し、当局側から、次のとおり回答した。
  - ・ ハラスメントに関する職員アンケートについては、来年度のコンプライアンス推進計画の中の位置付けも含め、今後検討していきたい。

- ・ 事例集については、身近に起こりそうな事案を冒頭に掲載したり、文言をわかりやすい表現にしたり等の見直しを行った結果、職員からの評価が少し上がったと考えている。表現と伝え方の工夫に終わりはないので、動画を取り入れるなど、粛々と続けていきたい。
- ・ コンプライアンスの取組が、どのように職員に受け止められているかについては「コンプライアンスに係る職員アンケート」を通じて把握している。また、研修でコンプライアンスを取り上げた場合は、研修アンケートのコメント等で職員がどういうところに関心を示したのかを把握している。
- ・ 非違行為には、様々な要因があると考えており、そのような背景を職員に正しく理解してもらうよう取り組んでいきたい。
- ・ 事例集等のツールを使って、行政経験の長い職員が行政経験の浅い職員に職務経験から得られた生の言葉を伝えることが、コンプライアンスの知識を意識に変革する一番重要なことだと考えている。使い方については、もう一工夫必要だと考えている。
- ・ 開発局の工事では、総合評価落札方式の入札手続きにおいて、効果が高いと認められた技術提案については一定の評価をするなど、新しい技術を積極的に採用するよう努めている。

以 上